

話題がいっぱい /
なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえボックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



7/3 “人生達人クラブ”でチャーガンじゅう!

中央公民館で、浦添市老人クラブ連合会による「生きがいと健康づくり健康講演会」が開催されました。講師に東哲徳先生(医療法人陽心会メディカルプラザ大道中央病院訪問診療部長)を招いた講演会には、総勢117人が参加し、いつまでも元気で長生きするための生活習慣について学びました。

東先生は「普段の生活から思いやりを持って人と接する“思いやりスト”になれば、自然と人との関わりが増えて、健康寿命をのばすことにもつながる。老人クラブではなく“人生達人クラブ”を目指して、生き生きと活動していくことが大切だ」と話しました。



7/2 平和講演会 “命どう宝”を胸に刻む

中央公民館講座 平和キャラバンの一環として、市内8校で平和学習が行われ、そのうち神森小学校では、銘苅教育長による「いくさゆーぬ ゆっかぬひー」が行われました。

「ゆっかぬひー」とは、旧暦5月4日を指し、子どもたちがおもちゃをもらうことのできる日です。ある一つの家族に焦点を当て、戦争の迫る当時の「ゆっかぬひー」の様子や戦争の悲惨さ・残酷さ、そして「命どう宝」の想いが、銘苅教育長の一人芝居によって語られました。

児童らは熱心に芝居を鑑賞した後、恒久平和を願い「沖縄から平和のうたを」を歌いました。児童を代表して、佐久川航さんは「二度と戦争を繰り返してはいけません。この講演を通して、改めて平和の尊さを感じた」とお礼の言葉を述べました。



6/20 能登半島地震災害義援金贈呈式

令和6年能登半島地震によって被災された石川県輪島市を支援するため、市自治会長から義援金が贈呈されました。

宜野座富夫会長は目録を手渡し、「能登半島は地震発生から半年が経とうとしているが、現地はまだ落ち着いていないと聞く。少しでも復興に役立てていただきたい」とあいさつしました。松本市長は「この義援金が、能登半島への応援の証になればと思います。また、日本は災害の多い国であり、沖縄も人ごとではないので、何かあったときには助け合っていきたい」と謝辞を述べました。



7/10 全国高校総体出場に向け意気込み

7月末から8月にかけて行われる全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場する、陽明高等支援学校でボクシング部の根間空志さん(3年)と陽明高等学校で体操部の知念美空さん(3年)が市長を表敬訪問しました。

6月に行われた九州大会で優勝し、全国出場を決めた根間さんは「バンタム級で初めて九州大会で優勝できて嬉しかったが、決勝の相手が幼少期の練習仲間だったこともあり感情が入ってしまった。全国ではどんな相手でも向かっていけるように頑張りたい」と述べ、県大会で個人総合2位に入賞した知念さんは「今までの練習の成果を発揮して、自己ベストを目指し、いい演技ができるように頑張りたい」と意気込みを語りました。



7/2 犯罪や非行のない地域社会のために

犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生への理解を深め、犯罪のない明るい社会を築こうとする全国的な運動の一環として、第74回「社会を明るくする大会」がてだこホール小ホールで開催されました。

大会では、市内の小中学生から応募された社会を明るくする作文の中から15人が表彰され、同作品から3人が意見発表を行い、浦添中3年の崎原未来さんは「更生しようとしている人たちが、二度と同じような過ちをしないよう支え合える、明るい社会を作っていきたい」と語りました。また、絆愛こころクリニック理事長の杜由樹さんは、アルコールや薬物依存症だった過去の体験談をもとに、多様化する依存症とその回復支援について講演しました。



6/25 プロ直伝!個性溢れるティッシュケース作成

仲西小学校の4年生を対象に「お家について知って、大工の匠の技術を体験しよう!!~木造キットを組み立てよう~」をテーマに住宅メーカーの一建設株式会社の特別授業が行われました。児童らは、家の種類や特徴、沖縄の家、大工の仕事について学んだ後、実際に大工が使うノコギリを使って木材のカットや、木造キットを使ってオリジナルのティッシュケースを作る体験をしました。窓や煙突などの部品を使ったり、クレヨンで模様を描いたりして、それぞれの個性が溢れるティッシュケースを作りました。1組の比嘉優心さんは「最初は完成できるか不安だったが、大工さんや友達が教えてくれたので、上手にできた。ハイビスカスやシーサーのステッカーを貼って、沖縄っぽく仕上げた」と、工夫して作ったティッシュケースを笑顔で見せてくれました。



7/9 你好! 泉州市と20回目の青少年交流会

友好都市である中国福建省泉州市内の小学校から派遣された児童生徒との交流会が港川小学校で行われました。港川小学校の児童らは拍手で泉州市の子どもたちを出迎えた後、2年生によるダンスと6年生による平和の歌を披露し歓迎しました。泉州市の子どもたちも扇を使ったカンフーや中国伝統の京劇を踊りで披露し、出し物を通じた文化交流となりました。歓迎会後の6年生との給食・清掃体験では、タブレットの翻訳機能を使って会話をし、交流を深める様子も見られました。泉州師範小学校5年生の王心咏さんは「中国では、家で昼食を食べるけど、日本では給食を配膳して、みんなで食べることがわかった」と中国と日本の給食の違いについて教えてくれました。